

令和4年度第1回 山梨県教員育成協議会

I 日 時：令和4年7月14日（木）午後3時00分～午後5時30分

II 場 所：山梨県防災新館 教育委員会室

III 出席者

委員 10人（敬称略）

降旗友宏（会長）、古家貴雄、長谷川千秋、池田充裕、廣田健、永田清一、
堀川薫、小尾一仁、廣瀬浩次、柳澤縁

事務局 18人

教育監（義務）、教育監（高校）、理事、次長（総務課長事務取扱）、
働き方改革推進監、義務教育課長、高校教育課長、特別支援教育・児童生徒支援
課長、保健体育課長、教育企画室長、総合教育センター所長、義務教育課人事管
理監、高校教育課指導監、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課
長、教育企画室課長補佐、教育企画室主幹、教育企画室副主幹

IV 傍聴者などの数 2人

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 委員自己紹介

4 議事

(1) 令和4年度教員育成協議会の体制について

事務局

資料に基づき、説明

議長

質問・意見ないので次に。

(2) 教員育成協議会の令和3年度を取組と令和4年度の方針

事務局

資料に基づき（2）教員育成協議会の令和3年度を取組と令和4年度の方針について説
明

議長

質問・意見ないので次に。

(3) 各部会の取組について

事務局

資料に基づき、①養成部会について説明（養成部会）

委員

質問です。「山梨で学校の先生になろう」この取組も4年目を迎えるということで大変いい取組、有意義な取組だと承知しております。本県においても、教員採用の倍率の低下は喫緊の課題だと認識しています。他県の動向を見ますと、いわゆる教師塾みたいなものを開催されている県が増えているように感じます。この「山梨で学校の先生になろう」を今後どういうふうにしていくのか。あるいは他県で見られるような教師塾のような大学の3年生、4年生と連携しながら単位にしたり、また採用試験の一次免除というような連動が考えたりするのかどうなのか、展望がありましたら教えてください。

事務局

今現在、山梨で教師塾というものを開催していくという検討はまだ進んでおりません。他県の動向とかも見たり、また本県の教育の人材の確保、かなり喫緊の課題になっておりますので、検討を進めていかなければならないと考えています。

事務局

教員の魅力を発信するということが本来一番の目的ということで、昨年度大学生、高校生を分けて、それぞれの立場で思いを語り合うというようなことをしながら、教員というのはいいものなんだ、教員になろうという思いを持ってもらうという方向で進めています。昨年度新しい二つの形になったということで、3年ほどはそれを継続していこうという話は聞いていますが、また時代の流れであったり、教員採用試験の倍率の問題であったり、様々なことを踏まえて改善していこうと思っています。

委員

質問です。先ほど教育実習の話が出ましたので、もしお答えできるのであればいただきたいと思います。今後情報の免許を取りたいと、教員を目指したいというような生徒が増えてくる可能性があるかと個人的には考えているんですけども、その一方で高校現場にはなかなか情報の専門家というものが残念ながら多くはないと。実際に卒業生等が情報の免許を取りたい、そのために教育実習をしたいといった場合に、現場としてどんな対応をしたらよろしいのか、もしお答えできるのであればお聞かせいただきたいと思います。

事務局

高校教育課から説明させていただきます。教科情報につきましては、この夏に様々な研修の機会がありますので、これを流していく予定でありますので、また新たな研修等も随時出てきていますので、参加してもらえように対応しているところです。合わせまして6月の補正を組みまして、教科情報1の指導に関する教材等を導入することが決まりましたので、今後は業者を集めましてその教材に向けての研修なども行っていく予定であります。

議長

今の質問は、免許を取るための取り組みという観点というよりも、免許外の先生方がこの情報Iの授業をしていただく上で、どのように資質をあげていくかという観点で、研修についてはこういうことを考えていますという話だったのですが、大学のほうから何かこ

んな動きがありますとか、こんなことを考えていますということなど、今の段階で言えるようなことがもしあれば、情報提供をしていただければと思いますが、今の時点で何かお話し頂けることはございますか。

委員

山梨大学では、高校の情報の免許を持った方というのを養成していきたいという思いは強く持っております。その際に教育学部の学生の場合ですと、教育実習は中学校、高校に限られますので、数学、理科の教育実習で済ますことができますが、意欲のある学生の場合には応用実習としまして是非高校で情報の教育実習をさせていただきたいという声は絶対出てくると思っていますので、今後それをどういうふうに進めていくかというのはご相談させていただきながらと思っています。

議長

本県も、情報Ⅰの免許を取りたいという先生方や、学生のニーズが高まるにつれて、大学でもそのような考えを持っていらっしゃるということです、この辺りはまた相談させていただきながら、進めていければというふうに思います。

事務局

資料に基づき、②採用・人事部会について説明（採用・人事部会）

委員

この人材確保というのは本当に喫緊の課題で、昨年度も確かお話ししたと思うのですが、この魅力発信と同時に、この働き方改革の取組、本当に確実に進んでいるので、それをきちっと、ここに情報発信と書いてありますけれども、していくことがすごく大事なことだと思います。それでこの発信、これは説明会で話すということなんでしょうかね。どのように発信していくのかなというのをちょっと知りたいと思いました。

それからもう1点は、10ページの（4）番ですね。奨学金の返還を免除するというか、支援するという、これ確か昨年あまり応募者が少なかったというようなことを何かこの会でお尋ねしたような記憶があるんですけども、何かそれについて感じる点があるのでしょうか、お聞きしたいと思います。

事務局

具体的にどのような内容、どのような方法でということだと思いますが、働き方改革推進監とも連携を取らせていただく中で具体的な数値の変化でありますとか、先進的な好事例というものが集約されているようであれば、そういったものも提供していくということも一つ必要な内容ではないかというふうに思います。届けていく方法としましては、やはり大学説明会等の中でやり取りをする中で、実際に生の疑問を持っている方もいらっしゃると思いますので、そういった中でやり取りを実際にしていくということも大事じゃないかというふうに考えてはおります。

事務局

今まで大学生への説明会の中であまり本県の働き方改革についての状況だとか、発信というところは少なかったところがありますので、今ご指摘がありましたように実際にどういふふうに進んでいるのかということも学生のほうに発信し、またそれ以外、どんなふうな形でより発信していくかということも、人事担当とも相談しながら検討のほうを進めてまいりたいと思っています。

議長

一委員としての発言になりますが、委員がおっしゃるとおり、ここが非常に弱い所です、今の事務局からの回答があったように、われわれのウィークポイントだと思っています。具体的には、この下の10ページに情報発信に係る工夫という所で抽象的に書いていますが、今回の(4)に書いてある小学校の教員確保推進事業に応募していただいた方や、また、説明会に来ていただいた方のメールアドレスをいただいて、そこにSNSや、現場の先生方からの生の教職員の声などをお届けしながら、山梨の先生方というものを身近に感じていただく工夫を発信していきましょう、ということで今動いています。その中で、今委員からご指摘いただいたような、働き方改革もやっていて手応えがあるということも入れられればと思っています。ただ、この働き方改革については、現場の取り組みとしてうまく発信するまでに昇華することがまだ不十分と思っておまして、この部分をどのように発信していくのかは、働き方改革推進委員会も含めて、取り組みを強化していかないといけないと思っています。この発信については、やっていきますと言いつつすでに1年、2年ぐらい続いているものの、正直まだ効果的なところまでは見られていないというのが私の率直な思いでして、ここは自戒を込めて反省すべき点と思っております。特に、このSNSやメールの活用については議会でも説明させていただいており、取り組みを進めていきたいと思えます。委員からのお尋ねにお答えしきれているかどうか心許ないですが、一つ一つの担当でははざまに陥りやすい部分なので、これは組織横断的に取り組む部署を今年度から教育委員会の中でも設けておりますので、そこを中心に全体をコントロールしていきたいと思えます。お答えになっているかどうかわかりませんが、こういう状況だということでお話をさせていただきました。

そして2点目の委員からお尋ねいただきました小学校教員確保推進事業の周知については、今の現大学3年生に向けて、去年よりもより改善している点などについて、事務局から説明できますか。

事務局

本年度は1回目の大学訪問から担当のほうで周知をさせていただいております。昨年度は制度の始まりが秋からでしたので実現できなかったのですが、今年度は初回の5月12日から紹介をさせていただいております。資料P9の5大学さんについては3年生、4年生だけではなくて、多くの大学で1年生から受けていただいているということを担当から聞いております。スタートを早くして、この奨学金を是非活用をしていただきたいと思いますということをご案内しております。

それから説明者からの話ですと、どうしても説明の仕方としてこちらのほうエントリーをしていただくと、必ず山梨県を受けなければならぬというふうな誤解を与えかねないような説明としてあってはいけません。こちらのほうは最終的に進路選択のところでは山梨のほうを受けていただくということをしていただくと大変ありがたい。そこまで山梨とのラインを繋いでおくということが重要になってくるわけですがけれども、最終的に例えば山梨を受験しなくてもエントリーはできるということで、今ここで応募しておいていただくということでも可能だと。間口を広くしてご紹介をさせていただくということ。それからそういうことにつきまして、大学の先生方、職員さんとも情報を共有させていただきながら、目の前の学生さん、支援機構で奨学金を受けているような方にご案内していただけるようお願いを、今後も大学の先生方とご相談させていただかなければいけないと担当としては考えております。

議長

小学校教員確保推進事業の周知については、各大学のほうでも既にご協力いただいているわけですが、今年度何か工夫というか、何かしていただける取組について、どなたかご紹介頂けますか。

委員

今のお話を聞いてちょっと思ったのですけれども、考えてみたらピンポイントで3年生ということだとしたら、3年生の授業を担当している教員に、説明するのはちょっと難しいかもしれませんが、授業のときにこの授業内容を書いた紙を配布するとか。たまたま私、教育後期を扱っているので3年生の担当なのですね。今言ったような形で何かちょっと構えてしまうところがありますが、もちろん受けてもらうのに越したことはないけれども、エントリーをまずするという形で、これをちょっとよく見てごらんよという形はできそうなので、何か授業のときに配れるA4ぐらいでいいと思うんですけれども、紙をいただいたら、特に必修の授業のときには配布することができますね。こういうのはピンポイントだから割とやりやすいのではないかと思います。

委員

今年度の取組ということではないのですが、今委員が3年生というふうにおっしゃったんですが、現3年生が募集するのが4月ということになりますと、2年生のほうの方がより心の準備ができて効果的かなと思ひまして、今後の取組になると思うのですが、山梨大学の場合ですとちょうど2年生の後期の授業が終わった頃の2月ぐらいのタイミングで、全員を集めた講座であったり、教育実習の事前指導がありますので、そういった場をうまく使うと、教職に関する意識啓発講座みたいな形でもありますので、ちょうどいいタイミングかと思いました。

議長

この事業を始める際に検討していたこととして、一般論かもしれませんが、教職課程の学生さんが進路を決める時期というのは、3年生の秋口とか夏休み前には既に教員採用試

験を受けるかどうかを決めている学生さんが割と多いということでした。ですので、3年生の早いうちには受検するかの腹を固める頃合いということですので、3年生の早いうち、ないし今委員が言ってくださったような、2年生のときに説明するというのをしながら、インセンティブを感じていただくのが効果的な感じがしまして、是非こういったことの進め方について担当とも相談させていただきながら、今年は結果として8名だったとありますが、これをもっと多く、2倍以上の実績となる事業になっていきますと、行政の側としてはこの事業をさらに後々の年まで予算化するという流れになってまいりますので、この辺りについては先生方のご協力を是非いただければと存じます。

委員

今年はガイダンス、4月にやる3年生と4年生のガイダンスで宣伝をさせていただきました。できましたらもし2年生とかやるなら、来年以降これがどういうふうな感じになっていくのかということで、パンフレット、チラシも含めて最初にご連絡いただければ、そうすれば先生もなるべく確保できると思いますので、これご検討いただければと思います。

議長

その辺りも大事なことだと思います。事務局のほうと作戦を考えていただければと思います。ありがとうございます。

あと、先ほどの話に少し戻りますが、委員がおっしゃられた教員の働き方改革の取組というのは非常に大切だと思います。これから先生になろうというふうを考えていただく採用・人事の観点からも、また新たに先生方になられた若手や現職の先生方にとっても、この教員の働き方改革の意識というのは着実に根付いてきてはいるものの、これからはずっと続いていくテーマになると思います。そういう意味では、今回の採用・人事部会で、教員の働き方改革についての発信というふうに入れていただいています。恐らくこの働き方改革はほかの部会でも視野に入っていくべき論点なんだろうと思っています。なので、事務局の先生方、是非この働き方改革という課題をそれぞれのお立場から考えていただき、オール教育委員会、オール県、全員が働き方改革の担当という意識で取り組めるようになるといいなと思いました。

また、一意見として留めておいていただければと思います。

私から1点だけお願いがありますが、教員選考検査の改善についてですが、先ほど委員のほうからもありましたように、教員の志願者数が減ってきていることが大きな課題になっています。採用・人事部会とか、各部会で検討する話かどうかも含めてですが、まず事務局のほうには、県外で山梨県の教職員の試験を受験できる機会を設けることについて考えていただきたいと思っています。他県ではすでに県外で受験ができる取組をやっているところも多うございます。本県でも、都内や神奈川、埼玉、千葉といった大学生が多くいる地域で山梨県の教員採用試験をPRしていく視点も大事だと思います。是非こうした視点から考えていくべきということを記録として記しておいていただきたいと思っています。

事務局

資料に基づき、③育成・研修部会 育成指標を踏まえた教職員の研修計画について説明
(育成・研修部会)

委員

研修履歴票について教えていただきたいと思います。活用の状況、それから利用者の意見ですとか感想。それから逆に利用していない方がいらっしやいましたら、なぜ利用していないのか。その辺もしおわかりでしたら教えていただきたいと思います。

事務局

活用の状況ですけれども、令和元年度からこれを使っておりまして、最初の頃は活用しているというふうに答えた人は10パーセント、12、3パーセントだったのが、最近では20パーセント近くまで上がっています。またこれを調査しているのが11月ぐらいですけれども、その時点でこれから活用する、年度末に向かって活用するといったお答えをしてくださっている人は50パーセントぐらいいらっしやいます。今お話にありました活用していないという方の生の意見とすると、誠に悔しいですが必要性を感じないといった率直な意見をいただいたりしておりますが、今回国のほうの教特法の改定によって履歴をきちんとつけるという部分が出てきておりますので、それも踏まえてきちんと学校のほうに説明するという機会を、先生方にそれをもって自分の研修をしっかりと把握するということ。それから管理職はその履歴を基に教職員に指導するといった流れをきちんと構築していきたいと考えております。

委員

是非周知をしていただきたいということと、あとせっかくお作りいただいているわけですから有効活用ができるようなものとして、また必要に応じて様式等の改善等も含めてまたご検討いただけるとありがたいなと思っております。

議長

私から質問ですが、先ほど事務局のから説明がありました、教特法により、学校で研修の履歴をつけて、それを活用する方向性が国のほうから方針として示されそうということで、現時点ではまだその方針は示されていないわけですが、国の方針の内容によっては、この研修履歴票についても見直す可能性はあるのでしょうか。

事務局

現在ここで13ページに載せてあるもの、これはどちらかというと総合教育センターの研修を履歴として残していくというものが中心でした。ただ、今回国のほうのガイドラインですと、それ以外にも、例えば自主的に研修を行ったものも載せる。また教育委員会等で指定で研修しているもの、そういったものも載せるというふうな形になりますので、より多くの情報を載せるということになります。そうなってきますと、ちょっとこのレイアウトだと少し書ききれないという場合も出てきますので、例えばポートフォリオという名前で下のほうに作っていますこの自分の研修を受けてどういうふうに思ったかという辺りを少し削除するとか、何かそういったことを考えたいと思います。国のほうもできるだけ

簡素化せよというガイドラインもありますので、その辺も踏まえて対応していきたいと思っています。

事務局

資料に基づき、③育成・研修部会 「2022やまなし教育みらいフォーラム、山梨県で学校の先生になろう」について説明（育成・研修部会）

委員

人材のところとかも関わってくるかもしれないですが。先生になってほしいと思う気持ちを伝えるときに、教員選考に際しても色々条件を緩和して下さったりして、受けようという体制は少し下がってきているというふうに感謝していますが、その中でやっぱり確保の人数とともに、質のことがすごく問われていると思います。先生になってほしいという魅力を伝えるときに、子供と一緒に活動する楽しさとか、何かそういうことだけではなくて、自分が持っている技量とか能力とか、そういうものも発揮できるみたいな、そういう魅力も伝えていければいいと思っていて、先ほど色々フォーラムとか重ねながら、いろんな所で話や内容が重ならないように話をしていきたいというふうなお話もあったので、どういうふうな方向性のことを今考えていらっしゃるのか、あったら教えていただきたいし、なければ感想としては数だけではなくて、確かに育成指標もあるので入ってから育てていくということももちろん大事だとは思いますが、そもそものところとして楽しさとかやりがいとか、そういう気持ちのことだけじゃなくて、自分の力を発揮できる場でもあるというふうな、そこが伝えていければもっと優秀な人が来てくれるかと思ったのがよろしくをお願いします。

議長

数だけではなくて、質の部分についてもどうですかというようなお尋ね、ご意見ですが、このことに関連して、質の確保の観点からはどうでしょうか。育成・研修部会というよりも、採用・人事部会か、あるいはお答えできる方、教育監からでも構いませんが、どなたか説明できる方、お願いします。

事務局

様々な質の確保ということで、今ご紹介したような検査だけでなく、当然こちらのほうでお知らせをさせていただいた、例えば検査問題も含めてですけども工夫改善させていただく中で取り組んでいきたいと思っています。あと義務教育課のほうからの大学のほうに説明に行くときにも、学校の先生方のこのフォーラム以外でも魅力を発信する中で、資格のある職種でもありますし、自分も今まで学んできたことがきちんと発揮できる職場でもありますので、自分自身の得意な分野と言ったら失礼ですけども、学びということが直接発揮できるような職場であることも大学の説明会の中でも紹介しています。ただ、本当に人が数が集まればいいということではなくて、それを持ちながら採用試験についても単純に数ということだけでなく様々な工夫をさせていただいたり、申し上げたように試験問題を工夫したりとか、あと問題自身が時代に合ったものということで、今年度から英語につい

でも取り入れたりとか、そういうところを踏まえて多角的にしています。あと、特に二次の面接などで工夫をしまして、様々な教員の経験者、教職の経験者だけでなく、様々な職種の方に入っていただいて、細かいことはお知らせできないんですが、その人が教育的な面だけではなくて人間的にどうなのかということを含めた面接選考をさせていただいておりますので、そういった諸検査も含めて人材の優秀さを見極めながら取り組んでいるところでございます。

議長

皆さまご案内のとおり、特に小学校の教員採用試験の受検者数が減っているんです。今の委員からのお尋ねの回答になるかわからないですが、説明する場面と対象によって、説明の仕方を対象に合わせた説明をすることが大事と思っています。今の実情としては、県内の教員養成大学について、具体的に言うと山梨大学の教育学部ですら小学校教員の受検者数は高いわけではないという現実があるわけです。プロを養成している教員養成機関に在籍する学生さんに対しては、教員養成機関のプロとして、一般の教諭とは違う目線から教員の魅力などについて語っていただいたりすることが、学生さんにとっては胸を打っていくのではないかと思います。そこの辺りが、ひいては優秀な教員を目指していこうと、やる気とモチベーションと専門性が高い教員を目指していこうと、やる気の導火線に火をつける部分であると思っております、そういったところも含めて説明会で工夫されていくといいと思っております。

委員

去年みらいフォーラムに出させていただきました。高校につきましては入れなかったのわからないのですが。山梨大学でも去年、2月11日に「教員養成学部に行こう」というものを計画してやりました。私たちとしては、できたらやっぱり県のフォーラムのお役に立ちたいという形で、開きまして58名が参加いたしました。分科会について大学はともかくとして、高校生対象については、去年も非常に有意義だったと思うのですが、もう少し教師の世界とか、あるいは教師というのはどういう能力が必要だとか、そういうことについての知見みたいなものがもう少し必要なこと、しかもうまい説明でというか。そういう点では去年我々1時間半で「教員養成学部に行こう」をやったのですが、第1部で教員として必要な資質能力について。社会が求める教師像とか、資質能力を高めるために、どんな学習とか体験していったらいいかみたいなことですね。それが非常に意味がありました。これ30分やりました。次に、教員養成学部というのはどんな学部で、どんなカリキュラムがあって、どんな支援があるのか、主に山梨大学に関してのものをやり、第3部で実際学生に、4年生かな、参加してもらい、教員がどうとか言いながら過ごしながらかわらうと回答してもらおうというようなことで、イメージを持ってもらうということをやりました。これ1時間半やりました。恐らく分科会のほうですが、高校生のところで最初の教員として、その資質能力についてということで、教師の世界だとか、そういうところのイメージを作るといえることが重要なので、特に最初のところを今回の高校の部分にちょっと入れさせて

いただければなというふうなことを考えておりました、先走った感じなんです、去年やっていた、一部をこちらでということに関しては一応承諾はいただきましたので、もしそれを検討していただければと。もちろん教育センターのほうでは色々考えがあると思いますので、こういうことをやりたいということもあると思うんですけども。私としてはとにかくイメージ、魅力もイメージも、そしてどんな能力が必要で、どんなことを体験していくとよい先生になるのかなみたいなことを、実際に聞くということは非常に参考になるのではないかなというふうに思っていて、もちろんこの資質能力のことだけじゃなくて、教員養成学部はどんな感じという部分もやれと言われればまたお願いしてみますが、一応今のところはそんな感じです。

議長

今年度の「山梨県で学校の先生になろう」フォーラム、これと山梨大学と一緒にやるというこの辺りの話は、現在、そのような方向で準備などが進められているのですか。それともまだ今のご提案を受けてやるかどうかを決めるという形なんですか。

事務局

センターとしましては、この協議会でご意見をいただく中で、このあと検討していきたいと考えておりますので、先ほどの、対象に合わせるということが大事という部分につきましては、今委員さんがおっしゃってくださったことはとても重要なことだと思いますので、やっぱりこの辺は私が答えられる部分ではないのですが、検討する中で固めていきたいなと考えています。

事務局

「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムにつきましては、育成部会、センターの先生方が中心になって企画を立てていただきながら各部会が連携して行っております。センターの担当としますと、昨年は第1部でパネルディスカッション、第2部で大学生、高校生と分かれてという形で実施しましたので、昨年のノウハウで今年も計画していきたいという話がたたき台になっています。しかし、昨年山梨大学から「教員養成学部に行こう」という形で高校生対象にできたらというお話があり、来年度以降に生かしていきたいという話で回答させていただきました。前に進むために山梨大学さんだけではなくて、県内の大学さんと連携しながら高校生対象に、「大学で教員を目指すためにどんなことを学ぶのか」、「教員の資質は何なのか」という話をしていくような企画ができればよいと考えています。パネルディスカッションで参加していただいた先生方を、大学生対象のグループディスカッション加わってもらえば、若い先生方がどんなふうにいるのかというような意見交換ができます。そうすれば、内容がさらに深くなるのではないのかなと考えております。

議長

各大学の先生方にも、ここについては相談させていただきたいと思います。分科会について、大学生対象や、高校生対象、パネルディスカッションなどがありますけれども、こ

ういうところでは、うまくコラボして、互いの専門性を組み合わせることによってよりよいフォーラムにしていければいいなと思いますので、是非またコミュニケーションを図らせていただきたいと思います。

委員

是非声を掛けていただきまして、そしたら私も教育センターに出向いてお話しさせていただきますので、よろしくお願いします。

議長

ちなみに、この協議会でも、「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムは年間で複数回開催することが望ましいという意見がずっと出続けているのですが、その点についてはどのように検討をされているのでしょうか。

事務局

今時点でパネルディスカッションという形で、若手の先生方に集まってもらってということの基本ベースで考えておりますので、その先生方が第1部に続き、第2部でもグループディスカッションを行う形になっております。まだ複数回で対応するというところまで話が発展していないのが現状です。

議長

今は割と今ZOOMとかウェブ会議システムを使うと、こういう場は思ったよりも簡単に作れるものですから、こういう取組はやりやすくなってきていますので、今一度、先ほどの広報と合わせて、検討頂きたいと思います。この部分はちょっと難しく考え過ぎじゃないかというふうに思います。例えば、ミニ座談会をやります、ぐらいの程度でも全然いいんじゃないかなと思います。そういう視点も入れながら、今後に生かしていただきたいというふうに思います。

委員

先ほど議長から教員養成学部に対する厳しいお言葉がありましたが、現状、非常に重く受け止めておりまして、今まで以上に山梨大学教育学部は教員養成に対して、厳しい態度で今後養成をきちんとやっていく。そして採用される人を少しでも増やしていくということを考えているところです。ですので、この山梨で学校の先生になろうという企画は本当に我々にとっても重要な企画であります。是非コラボをさせていただいて、それぞれの得意分野で少しでも、山梨大学の学生だけということではなくて、県内、県外の大学生、高校生が山梨で学校の先生になろうというふうに本当に思ってもらえるような企画になっていけばいいというのが一番の願いであります。その中で今分科会Bの話について色々ご意見が出ましたけれども、分科会Aの大学生を対象にするというところに関しましては、やはり大学生になってきますと自分がそこに就職するのだという観点が出てきますので、先ほど話題になりました働き方改革のどんな取組があるというお話はもう是非とも必須だと思っているのですが、ただ学生の視点というのは働いている現職の先生の視点とはかなり違って、現職の先生がこんなに楽になったということが自分のこととしてわからない

可能性があるのですね。そういったときに年齢の近い先輩の先生ですね、そういう先生がこんなふうになんか話をしていただくと、多分その方は大学生のことが記憶に何となくあると思いますので、そういう先輩の話というのが結構リアルに響くような気がしております。

それから仕事で楽になったという観点の中では、先生方が、くだけた話で失礼なんですけど、恋愛はどうなっているのかとか、結婚はどうなったとか、育児出産はどうしているのみたいな素朴な疑問も常に持っているようですので、特に育児休暇関係については教員の強みであろうと思っておりますので、こういったところを前面に出していただく。同業者の結婚もとても多いというふうに思いますので、そういったこともお話しいただくとか、是非学生の視点に立って構成を考えていただけるといいのかなということ。その辺のことは私どもにもし、こちらの先生方もいらっしゃいますけれども、大学生がどんなことを聞きたがっているのかと聞いていただければ提供できることもあろうかと思えます。それから給料面とか、昨日たまたま、あなたは働き方に関してどんなところに価値を見出すかというようなグループワークをしたのですが、3年生でしたが、みんな価値観が違っていたんですね。給料が大事だという人もいるし、やりがい大事だという人もいて、本当に色々多様な視点があるようですので、多様な視点からその教職の魅力、仕事の面白さということをお話していただいてもいいでしょうし、いろんな観点がありうるかもしれません。そういった中身を検討していきますと、複数回やってもいいのかなということもまたあとから出てくることもあるかと思えますので、まずこの所、分科会をどういうふうに運営していくか、どんな中身にしていくかということ、ここでみんなで検討していけるといいのかなというのがまず一つ思ったことです。

それから複数回に関連してになりますが、今年度も山梨大学では2月に「教員養成学部へ行こう」という企画が実施できればなど、高校生を対象としたものです。そこでは時間的ゆとりもありますので、大学生のリアルな声というのを聞かせる場もできるんですね。そういったこともできるかというふうに思っているところです。情報提供です。

それから3点目になりますが、どこの教員養成学部も今学生を確保する、それから教科ですね、国語とか英語とか、そういう多い教科ではなくて、音楽とか美術とか家庭科とか技術とか、そういったなかなか学生が集まりにくい教科に対しましての対策として、推薦入試というのをかなり導入しています。そういった推薦入試で受かった学生というのは、この12月18日の日付というのは、まさに身体が空いている状態であろうと思えます。推薦合格していて、場合によっては共通テストが課されているところと課されていないところとありますが、課されていない大学というのもあります。山梨大学がそうなのですけども。身体が空いているので、そういった方々もターゲットにするといいのではないかと思います。一般の高3生は試験勉強、受験勉強でそれどころではないのかもしれませんが、そういった推薦合格者への対応ということをお考えいただけるといいかというのが一つです。また山梨大学でも推薦合格者が出ますが、この12月18日の会に参加させてい

ただければということを考えております。必ず参加しなさいという分かりやすいアナウンスをして、少しでも多くの方が教員志望になっていくような形を作れたらなということがあります。

それから最後になります。申込みに関しまして、多分個人情報の関係であったりするかと思いますが、今は学生が個別に申し込む形に切り替わったかと思いますが。そのシステムですと、大学側があなたは申込みましたかみたいな確認がちょっと見えづらいことがあります。もっともっと大学生を参加させたいときに、どういう声掛けをするかということが今悩ましいところです。ですので、申込み方法がこうなっていますということを教えていただけますと、こちらでも工夫をいたしまして、先生方にもご迷惑をお掛けするわけにはいきませんので、大学のほうで独自にあなた申込みましたかという調査をさせていただいて、それで声掛けをするというようなことも考えさせていただければと思っております。

議長

まず今年度の12月のフォーラムも連携させていただくことを前提に考えさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

また、個人情報の取り扱いはどうなるのかはわからないのですが、例えば県の方で、申込みの際に、申込み情報については所属の教育学部と共有させていただくことがあります。と記しておくなど、工夫する余地があるのではないのでしょうか。工夫次第でそういったことができるならば、そういったことも考えていただければなと思いつつ聞きました。

委員

山梨県がこうして教育委員会を中心にこれだけの討議をして、たくさんの教師を迎えるという、こんな状況にあるということは、ある意味教師になりたいという人にとっては今このチャンスが絶対いいというようなことになるのではないですか。それを皆さんに伝えたくて言ったのではなくて、山梨県がどれだけ本気度があるかということについて伝えたいです。山梨県がいわゆる県内の小中高の学校の教師をどれだけしっかりと求めて、そして皆さんと一緒にどう子供を育てていくかということをしつかり伝える必要があるだろうと思います。そのときに教師になろうということを、今色々な角度からこれだけきめ細かに計画を立てたりして提供するわけですけれども、私はやはりなろうとしている人がやっぱり教師を目指したいというふうに思うのは子供に接したときだと思えます。これは幸いなことに教育実習というのがあります。あのときにほとんどの教師になりたいという人たちが、最初の教師を目指したい、やりたいということの大きなきっかけを作る機会じゃないかと思っています。私は地教委連の会長ということでいますので、できれば教員免許を取るためには実習も必要ですから、その実習をするのに他県から来ている方たちはその故郷に帰ってそして実習をしてくるのではなくて、山梨県の市町村の学校でそういう実習を受け入れるよというようなこともできたらいいなと実は思ったのです。それは遠くに帰ったり交渉したりということもなく、そういうことで22日に理事会がありますので山

梨県の本気度を伝えたいと思います。それでその教育実習などに協力はできないだろうか、そういうことをちょっと議論してくれないかと。そういうことができれば意見集約するので、それは県教委に伝えるよということも含めて前を向いて進みたいなということをお願いしてこんな話をさせてもらいました。

議長

より熱のこもった議論となり、皆様の力をいただいて本当にありがたいと思っております。引き続きましてどうぞよろしくお願いいたします。

「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムにつきましては、ただ今いただいたご意見を踏まえながら、内容によっては直接打ち合わせなどをさせていただきながら、次回の育成協議会の会議でブラッシュアップした案をお示しさせていただきたいと思っております。事務局のほうは、対応を引き続きお願いいたします。

(4) 教員等育成指標の改定について

事務局

資料に基づき、説明

議長

ご意見、ご感想をいただきましたと思います。基本的に今文部科学省のほうから示されてきている情報、5つの教師に共通に求められる資質能力というのを入れながら、育成指標を作っていきたいというご説明でありました。

委員

資料の3について、事務局からも説明があったとおり5つのポイントが構造化されました。そしてその矢印の4点目に校内研修の活性化ということが記されました。その校内研修の活性化、現場の教師は現場で育てる、とても大切なことだと認識しております。この校内研修の活性化の部分が見直し案ではどの部分に反映されるのか。今まで現行では学校運営の中で研修がうたわれていますけども、この研修はどちらかと言うとセンターの研修ですとか、教育委員会での研修を指しているかと思いますが、校内研修の活性化の部分は指標との関わり、どのようになるのかお考えを教えてくださいたいと思います。

事務局

教員免許更新制の発展的解消に伴う国の方向性が出てきまして、これを受けた形の方向性を加えて考えているところですので、まだこの校内研修をどういう書きぶりで入れたらいいかという、具体的などころまで考えが及んでいません。これから検討する中でご指摘も踏まえながら指標の原案の検討に加えたいと思います。

議長

今のこの資料の3の2ページ目に改正案のポイント②というページがありますけれども、これを見ていただきますと、右側の上から2番目に、先ほど説明がありました教師に求められる資質能力の構造化ということで、ここに①、②、③、④、⑤と書いてあるんですが、恐らくこれを実現するための研修機会、下と掛かってくる所だと思ひまして、指標の中に

入る話なのか、それともこの指標を実現させるために校内研修をやっているという話なのか、その辺りはちょっと国のほうが出てくる策定の指針案とか、その辺りも事務局のほうでこれから精査していただいて検討していただければなと思いますので、どんな指標とかになるのかなというのはちょっとまだ我々も掴みきれていないのかなという感じがいたします。

委員

私、前回この指標の作成にも携わらせていただいて、また今他県の資料も拝見して、やっぱりちょっと足りなかったと個人的にも思っているのは、保護者対応、地域連携、そこが本県はなかったということで、いじめ問題等対応する中で保護者対応の難しさ、本当に痛感をいたしました。またフォローアップということでOG、OB集まって情報交換しているんですけど、OG、OBから出てくるのはもう子供の対応よりも本当に保護者対応のところで苦しんでいるという話でもっぱらで、やはり本県この連携・協働ということでもう同僚と保護者一緒くたにしているんですけど、やはりそれは他県のように分けてコンプライアンス対応、コミュニティースクール等々も含めて地域連携と保護者対応は独立して載せたほうがよかったかなと今思った個人的な感想です。

委員

この見直し案の中でこんな方向というふうに思っているのですが、例えば文科の資料の中でこんな表があるページがありますよね。その所を見ていると4つの柱はあるのですが、その下にマネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携・協働などの横断的な要素して存在ということが書かれておまして、コミュニケーションというのは確かにとても重要だなというふうに思っております。現在の育成指標にもコミュニケーション能力というのは入っているのですが、これが教職としての素養だけではなく、専門性の中にもやはりコミュニケーション、先ほどの保護者対応もそうなんですけれども、どこかでコミュニケーション能力、コミュニケーションということがあるといいのかなということを思いました。

委員

細かく色々と出てくるというのは非常に大事なことだと思うのですが、同時にその教員にとって何を自分の研修のとき中心テーマとしてやっていくかということがないと、ばらばらになってしまうようなところもあると思うので、さっきのポートフォリオの中に、例えば今年はこんなことについて自分のやってきたことを振り返りながら、足りないだろうからそこを中心にやるという研修の中心的テーマを一つ持っていたほうが、ポートフォリオとの関係でもいいかなというふうに思いました。これが一つです。

もう一つは新しいテーマ、とても大事なことで、人権のことだとか取り上げていただいてそうだなと思うのですが、例えば今うちの卒業生支援でよく卒業生たちと話すのですが、例えばグローバル化の中でももちろん社会全体グローバル化する中の意義ということを知ることでも大事なのですが、同時に学校の中で今外国籍児童が結構多くなって

きた中で出てくる軋轢の問題だとか、最近コロナで止まっちゃいましたけれども、地域の中での外国人との接し方という意味での、もうちょっと具体的な事例との中での新しい課題というものがたくさん出てくるような気がするのですね。そういうのを少し、もちろんそこはトピック的に取り上げていいと思うのですけれども、明確にしていくといいかなと思ったりします。学生と話しているときでも、近年新聞なんかでよく出るブラック校則の問題だとか、ジェンダーの問題。特にうちは小学校の養成が中心になっていますので、その中では、これは決して悪い意味ではなくて、小学校は今女性のほうが少し教員の数が多くなってきている中で、働きやすくて、考えることができる職場だというふうにもなっている中で、そういう所をもうちょっと例えば日常の同僚の活動の中でこんな所を重んじていくというような形の、ちょっと軽いかもしれないのですが、しかし実態に沿うような新しい課題のものを幾つかあげておくと、こういうのは一つの人を入れこむときにも、多分そういうのを見て、学生たち意外とシビアでそんな所を見て、ああ一生懸命やっているなという県を選んだりするみたいですね。うちの大学は半分ぐらいが県外から来ております。その人たちに第一に山梨に受けろと言ってもなかなか難しいところはありますけれども、現状の中では必ずしも自分の希望している県には行けない中で、でも教員として生きていくということを考えたときに、すごく自分の学んだ地域って意味を持っているので、そういうところで、ああこういうふう大切にされているんだなということが実感できるようなことがあるといいかなと思います。

これで最後にしますが、先ほど県に残ってもらうということの中で、小さな研修会というのがありましたね。山梨大学さんのようにうちは大きくないので、新しいことはたくさんできないのですけれども、今例えば教育フィールド研究ということで年に20回ぐらいずつ3年生、4年生入っているのですけれども、そういう中で地域のお父さん、お母さん、それから地域の先生方と学校なんかでの取り組みを振り返る会があるのですね。こういうときに若干その山梨の優位性だとか、研修の話なんかが出てくると、これは残ることになる一つの要因になるかなと思ったりしていて、その二つが結び付くといいかなと思います。

一つは是非それぞれの年のテーマをきちっと決めて、自分はここを中心にやるのだよというのをポートフォリオに生かしたほうがいい。二つ目が具体的な行為と言うのでしょうか、現在的な課題の中に含まれながら、そういうものが日常と結び付くような形で提示されていく。それが自分が大切にされていると思われるような新しい課題と結び付くと、定着する意欲も結び付くのじゃないかなというふうに思いました。

議長

今、委員からおっしゃっていただいた、年間で自分がこれだというテーマの研修ポートフォリオは、先ほどの事務局のほうから説明いただいた、研修の計画とどこを自分が伸ばしていきたいのかということでフォローされている、あるいは充実を図ることができているのと思ったのが1点目です。また、2点目の、外国人の居住者の方が増えていること、これは恐らく文科省の提示にもあるのですが、特別の配慮や支援を必要とする子供の対応

という所にまきに入ることとあって、いわゆる学習に困難を抱える子供たちだけのみならず、こういう外国人で日本語の教育のフォローが必要だとか、そういう視点も含めた特別な配慮、支援を必要とすると。まさにこれは小学校、中学校で大きな課題になってきているわけですが、これは高校のほうでも、これからはこうした特別な配慮や支援を必要とする子供の対応の視点は、教育のど真ん中に入ってくるテーマであると感じております。ここに対する意識をどう高めていくのかということも、本県の今の課題ではないかなと思って、だからこそ国のほうも今回このようなことが教師に共通的に求められる資質能力としてあげてきているのだらうと思います。今の貴重なご意見は、これから育成指標改定の具体的な作業の議論を事務局のほうで進めていただくこととなりますが、今のお話をしっかりと踏まえて、形になれるようにしていければというふうに思った次第であります。

今回その育成指標ということで現行の資料、こういう形になっているのですが、ほかの県のことも含めると、こういう一覧になっているものがもう指標そのものであろうと。これの解説をするようなものが今の本文みたいなものに流れてくるという、こんな感じのかなと思うのです。最初に本文がきて後ろにこういうものがきてという、これなんか付録みたいな感じに見えるものですから、むしろこれ自体が指標だと。この指標の見方だとか解説みたいなものが手引きみたいな形で改正されていくという、こういう立て付けになるのかなというふうに思っていて、他県の多くの育成指標は一覧表をメインとしてシンプルにまとめられているというふうに、今日の15ページの資料の3、(1)の②の所に書いていただいているのですが、これをベースにちょっと作って改定の作業をしていただくのがよろしいのかなというふうに思うんですが、この辺りの方向性でよろしゅうございませうかね。まずこの方向でたたき台を作っていただいて、次回に繋げていただくということになります。それからステージにつきましても、16ページにまとめていただいておりますけれども、先ほど事務局のから(3)のこのステージの所については60歳までが現行の第3ステージ。これをベテランというふうにしてはどうかというところで、ここに定年延長の視点も入ってくると。この視点は大事なかなと思っています。

一方で、これはちょっとどこまであれかわからないのですが、最近その先生方のキャリアも多様なので、今後より多くの中途と言いましょか、様々な年齢の幅の方が初任として入ってくるというのが多くなってくるのかなと思っています。そうしたときに、例えば私今46歳なんですけど、46歳で先生になったときに、それでもやはり基礎形成期という言い方なのかという、これまでのその方のキャリアを加味した上でどこに位置付けるのかみたいな、そういった視点ってどうなのかなとか。ちょっとここはまだ結論出ていないのですが、恐らくずっと先生として奉職されて、ずっと先生になるというこのライナー型のキャリアの考え方ではない、いろんな先生のパターンがある中で、その中でこの指標ってどうやって使っていくのかなというのは非常に難しい課題ではあるのですが、その辺りはどう考えるのかなというのはちょっと気になる所でもあります。完璧に対応するようにし

てほしいという意味ではなくて、今後のその教員の構成とか入ってくる方々のことを見据えたときに、どういうステージだとか、どういった位置付けができるのかという辺りは、ちょっと一度議論していただいてもいいのかなと思った次第です。

事務局

資料に基づき、今後のスケジュールについて説明。

議長

R5年度の研修計画というのは現行の今の育成指標で作っていくのか、新しい新育成指標案で構築していくのか、今のところの見通しはどんな感じですか。

事務局

育成指標の策定が確定していなくても流れが見えていますので、現時点ではこの令和5年度の研修計画に新しく改定の案を反映させるような方向で考えております。

委員

要望。今日もこれについてどう思いますかとここで言って意見を言うというふうなことが一般的なんですが、多岐にわたるし、色々あるから、できたら事前に論点というか、こういうことについてどういう意見があるかとか、そういうふうにとちょっと、これについてここで育成指標の中のここについて意見を聞きたいみたいな、何かそういう予測みたいなのは厳しいんでしょうか。ここでこれはどうでしょうかと出して出すというのでもいいんだけど、宿題じゃないけど、もしできたらこの観点についてどういうふうに考えるのかを当日までに考えてくださいみたいな、何かそういうのをもらえると、まあ具体的にどういふふうなものが出てくるかわからないのだけど、ちょっとそんなことを考えました。

議長

本日は多岐にわたる論点について、いきなりお尋ねするような形となり失礼いたしました。本日も議論いただきたい観点や論点とか、そういった形でお尋ねしたいことをもう少し絞る形で、次回以降の会議で先生方にご意見をいただきたいところを絞った感じでお伺いできるように事務局で工夫をしていただこうと思います。

委員

難しいとわかるんです。ただステージだと、これとこれがどういうふうにと考えるとかでもいいので、もしそういうのが少しでもあればいただければ、事前に。

議長

今回はこの育成指標案を中心に議論をご検討いただきたいと思っておりますので、各部会の取組については、この9月でお諮りとかご意見をいただかないとどうしても困るようなことについてのみ絞るような形にして、基本的にはこの育成指標の案を中心にご検討、ご意見をいただくような会に、このような形にさせていただければというふうに思っております。最近ではオンラインでの打ち合わせもやりやすくなっておりますので、この協議会もオンライン開催みたいなものでも、来ていただける方は来ていただくでいいですし、移動する時間が省ければ参加できるというような方もいらっしゃると思っておりますので、そういっ

たやり方で時間を取るというのも一つの工夫じゃないかなと思いますので、事務局のほうもまたその辺り考えながらやっていただければなと思います。

5 連絡

事務局

次第に掲載されている内容に基づいて報告・連絡。

6 閉会